

# 水俣病患者へ愛の手を

倉岳町  
青年団

## 街頭で募金呼びかけ

「水俣病が公害認定をされました。しかし本当の解決はこれからです。苦しみながら死んでいった人たちにどう償いをするのか。病床で戦う多くの患者に精いっぱい援助を。そしてなによりも悪夢のような出来事を一度と繰り返さないために」天草郡倉岳町青年団（稲津俊徳団長、百二十五人）は、水俣病患者の救済と公害追放のための県民運動を起そうと全員で立ち上がった。

稲津団長らは水俣病を団活動の中心に取り上げることを決め、十四、十五の両日は手始めに街頭募金をした。町内三地区に六十人の団員が出て「水俣病患者へ愛の手を」と呼びかけた。

対し青年の立ち場から積極的に陳情、要望していくという。団内部に公害問題の研究グループもつくり、同じような問題をかかえる他県の青年たちとの意見交換も企画中。稲津団長は「水俣病は県下最大の社会問題といえる。私たちもじっとしてはおれない。できることからやってみよう。県民みんなが立ち上がってほしい」と訴えている。

同青年団はこのほど開いた役員会で水俣病問題について話し合った。「対岸の火として見のがすわけにはいかない」「青年の理想と団結でなんらかの役割りを持つ」との声がかつて飛び出した。

わずか二日間だが、町民の関心は深く、三万五千余円の浄財が集まった。団員はすっかり意を強くし、他市町の青年団にも呼びかけ幅広い募金運動を展開していく考え。青年団を中心に「愛の募金箱」を県下いっばいに広めようという計画を練っている。集まった浄財は水俣病患者家庭互助会へ送ることになった。

募金をきっかけに患者救済の県民運動を起し、国や県、企業に

募金をきっかけに患者救済の県民運動を起し、国や県、企業に

募金をきっかけに患者救済の県民運動を起し、国や県、企業に